



- 1 平成 26 年度テーマ別改善運動発表会
- 2～3 第 23 回東大和療育センター院内研究報告会
- 4 療育活動
- 5 春の発表会・研修報告
- 6～7 平成 27 年度事業計画
- 8 センターの果てまでイッテ Q
- 9 人事異動
- 10 編集後記

平成 26 年度テーマ別改善運動発表会 特別賞受賞 !!



■ ■ ■ 時には町のレストランでコース料理を！ ■ ■ ■

生活支援科主査 高井 直人

1 月 14 日の都庁テーマ別改善運動発表会に、センター代表として参加し、特別賞をいただきました。特別賞は、特別審査員によって選定される賞で、他の賞とはやや趣を異にするのですが、偶然にも最優秀賞に輝いた墨東病院の演題と『バリアフリー』というキーワードでつながっていました。外国人患者が多いことに着目した言葉のバリアフリーと、摂食嚥下機能障害に着目した食のバリアフリー。

発表会では、5 回に渡るイタリア料理店での食事会の取り組みを報告しましたが、世界はまだまだ広い。お隣のフランス料理店での食事会実現に向けて交渉した結果、「貸し切りならば…」ということで 3 月 26 日に利用者、職員合わせて 15 名が参加して、第 6 回食事会を開催することができました。

嚥下調整食用として、サラダは全て温野菜に。メインの魚料理は、蟹の身をほぐした物を玉子でプリン型に成形した物でしたが、身をより軟らかく、細かくしていただきました。15 名での食事会ともなると、おしゃべり好きの利用者を中心に会話の花が咲いたり、普段は食事が終わるととうとうと始める利用者も「次は何が出てくるの？」という期待感からか 2 時間近く顔を上げていたり、お腹も気持ちも一杯になるひと時でした。



メインの魚料理（嚥下調整食）

第 23 回 東京都立東大和療育センター院内研究報告会

開催日：平成 27 年 2 月 25 日（水）

当センター開設当初から開催している院内研究報告会も今回で 23 回目を迎えることとなりました。毎年、日々の業務改善状況を確認しつつ、研究成果の発表を通して、学術的資質の向上とセンター内外の評価を受ける機会としております。

今回の報告は、院内から 7 演題、院外から 2 演題の計 9 演題の口頭発表となりました。また、今回は、先日開催されました東京都主催「改善提案 2015 ～医療現場での取組～（テーマ別改善運動）」において、当センターの発表が特別賞を受賞したことに伴い、特別講演として改めて発表致しました。

特に優秀な研究については、外部学会等への発表及び論文を専門誌に発表するようにしております。近く全演題を論文の形で補正し、「東京都立東大和療育センター研究報告集第 23 巻」として発刊する予定となっております。



最優秀賞

『重症心身障害者病棟において終末期を迎えた長期利用者のケアを行うスタッフの体験』
第4病棟 黒田誠 他

優秀賞

『快表現の場面における超重症心身障害児(者)と療育者との関わり～参加観察法を用いて～』
第1病棟 宇田牧子 他

努力賞

『活動からみえる子育て支援』
よつぎ療育園 備海知子 他

その他の演題

『重症心身障害児(者)における薬剤性甲状腺機能低下』
医局 平山恒憲

『細菌数と齶触活性度を指標としての障害児(者)の口腔内環境の定量化の試み』
医局 久保田一政 他

『口腔水分計ムーカスを用いた長期利用者の舌・頬粘膜湿潤度の実態』
リハビリテーション科 矢内裕子 他

『重症心身障害児(者)にシャボンラッピングを用いた足浴の効果』
第2病棟 田畑知久 他

『立位・歩行が困難となった重症心身障害者にバランスボールを用いた座位保持トレーニング』
第3病棟 杉本裕樹 他

『重症心身障害児(者)通園施設における火災訓練について
～人工呼吸器使用者を含めた避難とは～』
あけぼの学園 田中輝昭 他

特別講演

『時には町のレストランでコース料理を!』
[東京都 改善提案2015～医療現場での取組～(テーマ別改善運動) 特別賞受賞演題]
第4病棟 高井直人 他

療育活動

華麗なるカレーの世界

年度末ですし、ぱーっと豪華にワールドでいきませんか…コンセプトは、病棟に居ながら世界を感じるなんてどうです？

バイクングは、どんな料理がいいですかねえ？



バイクング担当の企画会議

広く世界中にある料理といたら…カレーですかねえ？

- 欧風カレー
- バターチキンカレー
- サンバーカレー
- マッサマンカレー
- 和風カレー

ヨーロッパから発祥地インドを経て、日本までいっちゃいましよう！



お味はいかがですか？

そんなこといわないで、何かいってくださいよ！

もぐもぐ 何ともいえない…

もぐもぐ 感無量！



心の声…ナンだあ、ナンだあ、カンだあ、カンだあ、いって、カレーに、は、ナンだなあ、だなあ、

カレー大好きですよねえ…ナンとの組み合わせは、どうですかあ

もぐもぐ



あまーい、おいしーい

今、召しあがっているのは、欧風ビーフカレーですよねえ…お味は、どうですかあ？

飲み物のチャイもナンにピッタリでしたねえ…ナンチャイって、おつかれーさんでした。

いやあ、国が変われば、カレーも変わることよくわかりました！

もぐもぐ



バイクング担当の反省会



2015.3.19

■ ■ 平成26年度 春の発表会 ■ ■

リハビリテーション科理学療法士 山崎 理恵

暖かい春の気配を感じ始めた3月、リハビリテーション科では、今年も春の発表会を行ないました。発表会は、一年間のグループ訓練の成果を披露する会です。今年は総勢33名の皆さんが出演しました。

虹組は、ワルツ風にアレンジした「君をのせて」で車いすダンスを踊りました。三角形のフォーメーションで曲調に合わせた動きが印象的でしたね。オリオングループは、おもちゃのチャチャチャで兵隊やフランス人形に扮しておもちゃのお祭りを楽しみました。歩歩歩（歩行グループ）の皆さんは、それぞれが10年間に歩いた総歩行距離を発表しました。メンバー6人分を合計すると、センターから金沢まで行ける距離になるそうです。継続は力なり！ですね。レディース・ボーイズの皆さんは、パソコンで描いた絵や夢の中のお話の紹介、



障害者スポーツの紹介、音楽療法で作詞作曲した歌の披露など、個別訓練で頑張っていることや、興味があることについて発表しました。

復興支援ソングの「花は咲く」で踊った車いすダンスでは、かわいいお花のブーケと、紙吹雪で素敵な花を咲かせてくれました。そして今年はゲストとして、ちんどん屋さんの「チンドンさかえや」さんをお招きしました。ちんどん屋さん特有の太鼓や鉦（しょう）

の音色と華やかな衣装で、プレイルームは賑やかな雰囲気になりました。ちんどん屋さんとお話をしたり、歌を歌ったり、楽しいひと時になりましたね。

見学に来てくださった皆さん、ありがとうございました。また来年もお楽しみに！



■ ■ 全国重症心身障害児者施設職員研修会 施設管理コース研修を終えて ■ ■

事務部庶務係 三宅 閲子

平成27年1月21日(水)～23日(金)の3日間、大阪の山西福祉記念会館において開催された標記の研修に参加しました。公益社団法人日本重症心身障害福祉協会の主催にて、各分野の有識者達による講演と、参加者達が同じ担当業務ごとのグループに分かれて情報交換する分科会で構成されています。

普段はどうしても目前にある日々の業務をこなす事に焦点が合っていますが、自分の職場が重症児者施設であり社会福祉法人であり、社会的責任を担う業界であるという使命感をあらためて認識しました。更に、講演内容や参加者の会話の随所を守る会や会長の名前が出てくるので、その存在や担う役割の大きさも感じました。まだまだ未熟な一職員ではあっても、自分も色々な看板を背負っている事を自覚し、組織の一員として責任を持って職務に取り組もうと思います。



■ ■ 平成 27 年度事業計画 ■ ■

東京都立東大和療育センター

当センターは、重症児の年長化に対応するとともに、短期入所など在宅の重症児者への支援にも力点を置いた次世代型重症児者施設として開設されました。

運営については、開設当初から全国重症心身障害児（者）を守る会が東京都の委託を受けて管理運営を行ってききましたが、平成 18 年度以降は守る会が東京都の指定管理者として指定を受け運営しています。今年度は一回の更新を経て二回目の指定管理者として最終年度を迎えます。引き続き指定管理者として指定を受けられるよう、次のとおり事業を推進してまいります。

・長期入所は、開設以来 18 歳以上の利用者が継続して利用しています。しかし、利用者の加齢などにより、人工呼吸器などの濃厚な医療が必要な利用者が増加しており、今後ともその対応やQOLの向上を図っていきます。

・短期入所は、長期入所者と同様、医療ケアが必要な年少の重症児の利用希望の増加に対応するとともに、新規利用者の受け入れにも力を入れ、利用率の向上を実現します。

・通所は、多摩地区の 10 市町から受け入れ、定員 30 名で運営しますが、受け入れ時間の多様化、臨時受入れの増加などサービスを充実していきます。

・外来は、患者の診察までの待ち日数の短縮を図るため、引き続き診療能力の向上に努めていきます。

・平成 27 年度も従来と同様、看護師を中心とした職員の確保・定着対策を進め、円滑な事業運営を図っていきます。

・施設理念の実現に向け、より専門能力をもった人材とコスト意識を備えた経営センスに富む人材育成を目指します。

以上、今年度もセンターは、関係機関と連携し、より良い利用者サービスの提供を実現するため、職員が一丸となって事業推進に取り組んでまいります。



1 運営方針

- (1) 利用者ニーズや社会情勢の変化などを迅速に把握し、指定管理者制度を活かした効率的、効果的な事業運営を進めます。
- (2) 中期計画を着実に推進し、安全で安心できる、より質の高い療育サービスを提供します。
- (3) 短期入所の利用率向上、通所のサービス向上などを通じて、在宅支援事業の一層の充実強化を図ります。
- (4) 利用者家族などへの丁寧で分かりやすい説明と接遇の向上に努め、納得と信頼の施設の実現を目指します。
- (5) 職員の能力向上に向けた制度づくりを進め、高度かつ専門的な知識、技術を身につけた人材を育成していきます。
- (6) 関係法令及び各種規則・マニュアルなど、定められたルールを遵守し、正確で迅速な情報の共有化のもと、公平かつ公正に業務を遂行します。

2 事業内容

(1) 入所・入院（医療型障害児入所事業・療養介護事業）

定床 128 床

1. 長期入所は 92 床で運営します。
2. 短期入所は 28 床で運営します。
3. 医療入院は 8 床で運営します。
4. 短期入所、医療入院は枠にこだわらず、日程調整により空床を利用して多くの在宅者が利用できるよう、病床利用率の向上を図ります。

(2) 外来診療（診療事業）

1. 一日当たり 150 名の事業規模で運営します。
2. 診療室及び安全な歯科治療のための手術室の効率的な運用により、待ち日数の短縮を図ります。
3. 地域の医療機関との連携を促進し、心身障害児者の専門医療に対する要望に十分応えられるよう努めてまいります。

(3) 通所（生活介護事業）

1. 在籍者 40 名（3 名増）、一日受け入れ人数 30 名で運営します。
2. ご家族の負担を軽減するため、通所バスは 5 台で送迎を実施します。

(4) 在宅支援

1. 医療ニーズの高い在宅の障害児者の増加及び在宅で障害者を支えてきた介護者の高齢化に対応し、障害児者の在宅生活を効果的にサポートする在宅支援室の活用を図っていきます。
2. 一昨年度から開始した地域のかかりつけ医の重症児者医療への参画を図る「在宅医療ケア連携体制整備モデル事業」を、引き続き推進していきます。

(5) 地域社会との連携

1. 市町村や特別支援学校などの健診事業への協力を通じて、地域医療の充実と向上に寄与します。
2. ボランティアの積極的な受け入れや入浴施設・プールの施設開放事業の推進、地域への普及啓発活動を通じて、障害児者を地域で支え合う基盤を築いていきます。

センターの果てまでイッテ Q (くえすちゃん) !

～堅い守りが基本です!! 守衛室編～

いつもセンターの入口にいる守衛さんは、初めて訪れた人が最初に出会うセンター職員です。いわばセンターの顔であり、現在その顔は 6 名が交代で務めています。平日の多い日で、500～600 人の行き来を見守っているそうです。早速、守衛室の内部に進入してみます。お～やっぱりありました…監視カメラのモニターが。刑事物のテレビドラマに出てくるあれです。現在は 13 台ですが、もうすぐ 3 台増えて 16 台になるそうです。ややっ…誰かが映っている！ えっ…まさかここが映っているなんて！ これからは、見られていることを意識して行動せねば。

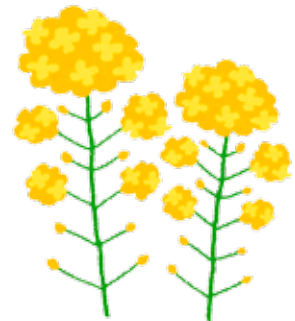
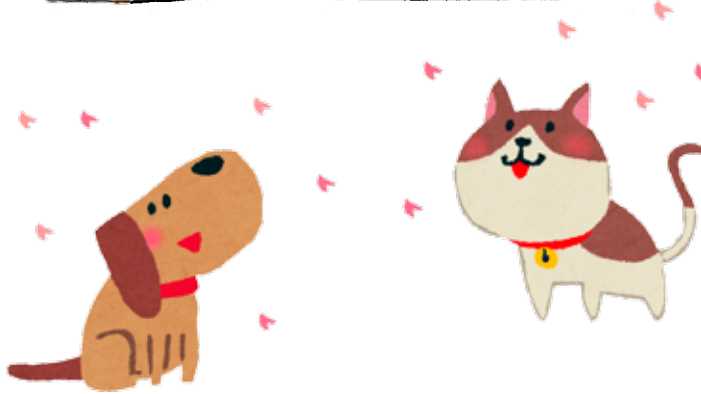
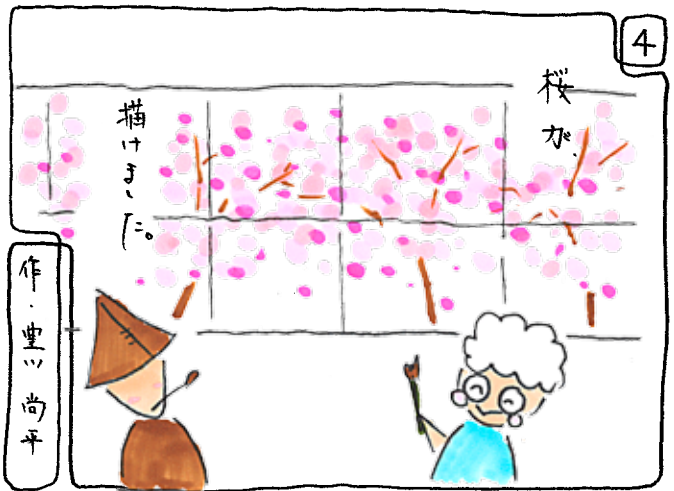
では、くえすちゃんです。「勤務時間は、何時間ですか？」「朝 9 時から翌朝 9 時までの 24 時間を、常に 2 名で勤務しています」と予想通りの返答。何となくそうではないかと思っていたものの、実際にうかがうと自分が想像できないだけに、ちょっと驚きでした。24 時間の間に 5 回以上の巡回があり、夜間も急患があれば仮眠できないこともあるとか。巡回中の守衛さんに出会うことが多いのも納得です。巡回の所要時間は 1 時間半で、特に夜の巡回は全ての部屋に入り、窓の施錠、電気スイッチ、水道の蛇口などくまなく点検するそうです。想像するだけで、気が遠くなってきました。そうそう、トイレの便座の蓋も一つ一つ点検するのだとか。もちろん、ウォームレット機能の節電のためです。皆さん、これからは使用後の蓋閉め、忘れずにしましょうね。「特別にとっておきの巡回裏話を一つ」…と言って勤続 15 年の方が語り始めたのですが……人気のない真っ暗な 3 階研修室の廊下に足を踏み入れ、照明のスイッチを入れた途端、誰もいないはずの個室トイレから……ジャーと水が流れる音が（ここ、稲川淳二風に語っています）うわーあああ～。その後、個室内部を確認しに行ったもののやはり誰もいなかったそうです。私なら即座に逃げます。さすが守衛さんです。実は、今も時々この不可解な現象は起こるそうですから、勇気のある方は 3 階へどうぞ。

「何か困っていることは？」との問いには、「とにかく迷惑メールならぬ迷惑電話が多くて」と。実は毎日のように、職員を装った呼び出し電話が絶えないそうです。うっかり個人につないでしまうと、マンションや株のセールスが生まれてしまうので、水際でくい止めてくれていたのです。相手の声を聞いただけで、何となくわかるそうですから、これは守衛という職種のプロ技ですね。「困っているというわけではないけれど、職員さんのお名前が覚えられなくて…」とも。毎朝通用口で顔は合わせているものの、私服に名札は付いていませんから、無理もないですね。皆さん、制服の名札は見えやすいところにちゃんと付けましょうね。巡回中の狸の親子との遭遇、宿舎前芝生のモグラ塚発見も最近はめっきり減ったとか。彼らの住処に近づき過ぎたのかもしれない。（報告：そよ風調査隊員 No.3 あっしー）

東大和療育センターには、地下 1 階から 2 階まで様々な部署があります。挨拶は交わすものの、実はどんな仕事をどんな風に行っているのか、意外と知られていない部署も多いのでは？

3 回にわたって、東大和療育センターの隅々に飛んでリポートする、新企画！の第 3 報





編集後記

各部署でニューフェイスを迎え、新年度が始まりました。そよ風とはいえば、昨年度より新コーナーを設けるなど読者の皆様楽しんでいただける内容をお届けできたのでは…と思っています。さあ、今年度はどんな魅力的な記事が掲載されるでしょう？お楽しみに！（T.U）

初めて「そよ風」の編集に携わりました。普段なかなか交流のない他部門の情報あり、面白ネタあり。皆さんに愛される「そよ風」を目指してこれからも頑張ります。（にこママ）



東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風第80号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 平成27年4月15日

発行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘3-44-10

☎ 042-567-0222

印刷 有限会社 はじめ印刷

☎ 042-560-3031